

1779
2008.7/10

大阪教育

昭和29年2月16日第三種郵便物認可/毎月10日発行/1部30円(組合員は組合費を含む)/発行・大阪教職員組合・〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11・大阪府教育会館7F/TEL 6768-2330/FAX 6768-2239/daikyoso@daikyoso.jp 編集発行人・加藤秀雄/印刷・関西共同印刷所

教育・くらし・わす

橋下「維新案」

撤回せよ

府議会開会

橋下「大阪維新プログラム案」を盛り込んだ2008年度の本格予算を審議する臨時府議会が開会した7月1日、府民団体や労働組合、障害者団体は終日府庁周辺で集会やデモを行い、のべ2600人が参加、「維新案」の撤回を求めました。府立高等学校

校教職員組合(府高教)はこの日夕方、教務事務補助員・非常勤補助員の解雇撤回を求める要請行動を、府庁玄関前で開催。府庁前を埋め尽くした参加者は、「非常勤教職員の雇用を守れ」「橋下知事は教育破壊をやめよ」の声を響かせました。

知事は、弱いものいじめやめよ

「理不尽な解雇は絶対許さない」「知事は弱い者いじめをやめよ」。

府立高教委員長は、6月21日の知事との団体交渉のなかで、「私たちの雇用よりイルミネーションの方が上なのか」と当事者の非常勤職員がたたきしたことに対し、知事が「それが私の政治判断」と言い放ったことを告発。「知事は教職員のいのちと生活を守る責任を

放棄した」と厳しく批判し、解雇撤回へたたき抜く決意を表明しました。府高教臨時教職員部長の小林郁子さんは6月にまとめた「府立高校に働く非常勤職員白書」を紹介し、「48名から寄せられた手記のなかから綴られていたのは、教育の一端を担っている誇り、生徒たちへの思いです」と訴えました。大教組の辻保夫妻委員長は、橋下知事がねらう「道州制」構想の問題をとりあげ、「財界の意のまま大阪をその実験台にすることが、橋下『行革』の本質」と指摘しました。

府立高校の職場代表者は、「2日間管理職を含む

350人のクビきり許すな

非常勤職員の解雇撤回を求めた府庁玄関前での集会、400人が参加(1日夕)



大阪府連の総決起集会、700人が参加。写真は集会後のデモ行進(1日夕)

「橋下プログラム案」は撤回せよ！
教務補助員等の雇い止めをやめよ！
教職員賃金の切り下げ反対！
教育破壊の撤回せよ！

私学助成を守り抜こう

大阪私学教職員組合書記長 岩井繁和さん

橋下知事の私学に対するきわめて偏狭で、一面的な認識にもとづく、私学助成の大幅削減予算案。このままでは私学経営は

「維新案」の私学助成削減

■授業料軽減助成削減=2009年度入学生から
・年収288万~430万の世帯 → 授業料年間7万円値上げ
・年収430万~540万の世帯 → 同6万円値上げ
■経常費助成削減=今年度から
・高校・幼稚園・専修学校(高等課程) → 10%削減
・小・中学校 → 25%削減

困難となり、授業料の値上げや大幅な人件費削減を行わざるをえなくなりま。これに対し私たちは、知事あて要請ハガキ2万5000通提出、5月31日の私学の集い・パレードに1000人参加、府会議員への要請など、父母・教職員、生徒さらに経営者を含めたオール私学の共同をすすめてきました。7月10日には「府庁前大集合」を開催し、私学助成を守るため全力を尽くします。



刀根山高校 山中知子さん

解雇撤回へ最後までがんばる

家庭科の実習補助をしています。年間100万円の賃金ですが、母子家庭では生活を支える大切な収入です。今回の解雇の提案は、娘がこの春高校に入学した矢先のことであり、目の前が真っ暗になりました。そんな時勇気をくれたのは、一番身近な家庭科の先生をはじめ職場の仲間の支えでした。卒業生も「先生守るためなら、なんぼでもやる」と署名用紙をたくさん持ち帰ってくれました。橋下「行革」に反対する豊中の集いで、私はドキドキしながら大勢の前で訴えました。するとその場で241筆の署名が集まり、連帯の力に感動しました。私は子どもたちのため、教育のため、そして生活のため最後までがんばる決意です。

障害者(児)のいのち・くらし守れ



障害者(児)を守る大阪連絡協議会 塩見洋介さん

橋下知事は「維新案」発表の会見で、「障害者と緊急医療、警察は特に配慮をした」と述べました。しかし私は、「それは違う」と強く言いたい。グループホームの上乗せ補助などの廃止を取りやめたのは事実です。私たちの発達課題と捉え実践に挑みます。その土台は研修です。また、運動のなかで府単独補助として創設された夕方7時までの延長保育の予算も、今回冷たく廃止されます。さらに障害児が学童へ通うための送迎にあてる加算も廃止です。このような財政再建のやり方で「子どもが笑う」施策と云えるでしょうか。

子どもの生活の場を奪うな



大阪児童保育連絡協議会 前田美子さん

橋下知事による「維新案」でわずかな学童保育関係予算の一部が削減されています。その一つは学童保育指導員の研修費です。子どもたちは学校では見せないさまざまな姿を学童保育の生活の場であらわします。その姿を指導員は子どもたちの発達課題と捉え実践に挑みます。その土台は研修です。また、運動のなかで府単独補助として創設された夕方7時までの延長保育の予算も、今回冷たく廃止されます。さらに障害児が学童へ通うための送迎にあてる加算も廃止です。このような財政再建のやり方で「子どもが笑う」施策と云えるでしょうか。

医療費助成見直し・自己負担増は許さない

大阪府 保険医協会 渡辺征二さん

大阪府独自の医療費助成制度が来年度から見直され、所得制限も強化されようとしています。助成の対象者は老人、乳幼児、障がい者、ひとり親家庭という社会的弱者であり、行政による弱い者いじめです。自己負担を上げれば深刻な受診抑制が起こり、必要な医療が受けられなくなります。府保険医協会は4医療費助成の見直しによる自己負担増の計画撤回を求め要請署名に取り組んでいます。財界主導の道州制の推進という橋下知事の本当のねらいを広く知らせ、世論の力で府民の命を脅かす「改革」を撤回させましょう。



湧水

「絶滅した」と思われていたフロレタリア文学がソンのようによみがえる。私たちは依然として「蟹上船」で働いている。…「ロストジェネレーション」失われた世代? 「ぎげんじゃねえ!」「失われた」んじゃねえ。「われわれ」が生きていくために必要なsomethingを、誰かが「奪ってきた」んだろ。全国「ロストジェネレーション」今こそそ団結せよ!」どこかで聞いたフレーズである。6月刊「超左翼マガジン・ロスジェネ」の「ロスジェネ宣言」の1節だ。就職超氷河期の90年代に社会に送り出された2千万人にもほぼ25~35歳の世代が動きはじめた▼これぞ憲法の生存権や労働権の絶好の教材と、授業でとりあげた。沈黙しているかのように見える学生も「正規」と「非正規」でなぜこんなに差別が「それって蟹上船じゃん」。ルソーと並んで雨宮処凛をレポートのテーマにする学生もいた▼橋下知事の常軌を逸した「大阪維新プログラム」案に、「笑顔をください」と街頭に立つ高校生の「貧しい者は学ぶな」というのかの訴えにも驚かす▼冒頭の「ロスジェネ宣言」は言う。「苦しみと悲しみを『自己責任』という言葉で片づけたくない。これまで感情を押し殺して黙って生きてきたけれど、いまになってやっと、自分たちが『怒ってもいいのだ!』と気づいたから。そう。老いも若きもひとつになって…」(C・S)